

11月14日 ゲスト卓話



国際ロータリー第 2770 地区
ロータリー財団部門補助金委員会
委員長 和井田 昇 様

ロータリー財団について

・ロータリー財団の歴史

ロータリー財団は、1917年、アメリカジョージア州アトランタで開催された国際大会において、アーチ、C、クランフが「全世界的な規模で慈善、教育、その他社会奉仕の分野で、よりよきことをするために基金を作ろう」と提案したことに始まり、1928年国際大会でロータリー財団と名づけられ、1931年に信託組織となり、1983年にアメリカ、イリノイ州の法令のもとに・非営利財団法人となりました。

・ロータリー財団の正式名称とは

「国際ロータリーのロータリー財団」

・ロータリー財団の使命とは

「ロータリアンが、人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること。」

・ロータリー財団の標語

「世界でよいことをしよう」

- 寄付推進の意義について(何のため権寄付が必要か)
人種、宗教、地域性、貧富の差に関係なく援助を必要としている人々へ、手を差し伸べていくことがロータリーにとって必要なことではないでしょうか。ロータリー財団の使命、標語、優先事項に基づき、「世界でよいことをしよう」という目的に向けて、RIのクラブ定款を採択している、各ロータリークラブ会員は、その共通ベースにある、ロータリー財団を支援していく必要があると思います。
- R財団は何をやっているか
(どんなプログラムを実施しているのか)
 - 教育的プログラム
 - 人道的プログラム
 - ポリオ・プラス

教育的プログラム

- 職業研修チーム(VTT)
国際ロータリーのロータリー財団職業研修チーム(Vocational Training Team)、このプログラムでは他国における自分と同じ職業の実践の様子を理解し、個人的かつ職業上の関係を育み、意見等を交換し合いながら研修します。一生に一度の充実した体験を味わい、専門分野についてより理解を深め、文化的な視野も広めることができます。また歴史や職業等に関する新たな理解を得ることによって、社会貢献に寄与することになります。
- R財団奨学金
財団が提供する世界で最も規模の大きい国際的な奨学金プログラムの1つです。奨学生は、外国へ留学するかたわら、非公式の親善使節としての役割を果たします。1947年以来、110カ国から47,000人以上の学生に、ロータリー財団を通じて奨学金が授与され、その総額は4億7,600万ド

ルを上回っています。帰国後、奨学生は、留学中の親善使節としての体験談をロータリアンやその他の人々に伝えます。

・ロータリー平和フェローシップ

国際関係、持続的な発展、平和研究、紛争解決の分野における修士号取得プログラムと、平和と紛争分野の修了証取得プログラム(短期コース)を提供しています。当地区に於いて6年前中村年度に第2770地区ロータリー平和フェロー基金を設立して、田中年度で50万ドルを積立達成致しました。平和フェロー1人を派遣する事が出来ます。

人道的プログラム

・主に、次の6つの重点分野を支援するプログラムです

- ① 平和と紛争予防／紛争解決
- ② 疾病予防と治療
- ③ 水と衛生設備
- ④ 母子の健康
- ⑤ 基本的教育と識字率向上
- ⑥ 経済と地域社会の発展

未来の夢計画では、グローバル補助金の中の、クラブ&地区計画補助金でのプロジェクトが多く、未来の夢計画以前では、マッチング・グラントのプログラムでした。

ポリオ・プラス

・ポリオ(小児まひ)を撲滅するための、プログラムです。国際ロータリーの最優先事項です。

R財団の活動資金源は、どこに有ると思いますか？

・ロータリアン皆さんのロータリー財団への寄付で成り立ってい

ます。

- 寄付の種類
 - 年次寄付
 - 恒久基金
 - 使途指定寄付(ポリオ・プラス)

年次基金

- 年次基金は、寄付の基礎であり、この寄付は使い道を指定することなく、寄付して3年後に、地区の年次寄付総額の50%がDDFとして、地区財団活動資金に、残り50%がWFとして、国際財団活動資金に分けられます。

なぜ3年後なのか？

- 資金を運用して増やすため、そのために3年間運用して、その後それぞれに資金をシェア(分ける)されます。又、そこで増やされた分は、財団の活動資金に使用されます。

年次基金地区目標額

- クラブ会員一人当たり、200ドル。また、この額は、寄付総額目標を会員数で割ったものではなく、1人当たりの寄付目標金額です。

恒久基金

- 恒久基金は、年次基金とは違い、元金は使わず、投資して得られた収益だけが3年後にDDFとして50%、WFとして50%に分けられます。つまり、基本的に元金は増える一方で、減ることはありません。
- ロバート・バース元RI会長は、「年次寄付は毎日、庭に水を撒き、花々に水分を供給するようなもので、恒久基金は、いつでも水が撒けるように、十分な水を用意している貯水池のようなものです」と語りました。
- 恒久基金の目標は、ベネファクター1名(会員50名以上の

クラブは2名)ベネファクターの寄付は、1,000ドルです。

ポリオ・プラス(使途指定寄付)

- ポリオ(小児まひ)を撲滅するために、長年に渡って、ロータリアンが全力で取り組んできた、重要なプロジェクトです。このプロジェクトに対し、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団が、1億ドル支援の約束をしてくださいました。そこにはロータリアンも同額の1億ドルを集めるという条件があったため、「1億ドルチャレンジ」と銘打って、1人年30ドルを3年間続け、計90ドルを目標に募金を募ってきたわけですが、翌年、ビル・ゲイツ氏が国際協議会に現れ講演をなさり、更に2億5,550万ドルの追加支援を約束されました。しかし、そこにはロータリアンも更に1億ドルの追加支援をすることが条件としてあったために、今度は「チャレンジ2億ドル」として新たにスタートしたわけです。チャレンジは、すでに達成されました。今年度(渡辺年度)は、1人当たりのポリオ寄付目標は50ドルです。

ポリオ撲滅の現状

- 1985年に、世界のこどもを、ポリオの恐怖から解放する為に始められたロータリーの活動が実を結び、当時は100を超える国と地域に蔓延していたポリオが、現在では、ポリオ常在国は、パキスタン、ナイジェリア、アフガニスタンの3カ国になっていて、「ファイナルインチ」と言われていりように、ポリオ撲滅は、あと一歩のところまで来ています。しかしながら、この3カ国では、内戦が絶えないことや、宗教上の問題などが山積しているため、撲滅までには、今しばらく時間がかかると思いますが、現在ポリオ撲滅は、ロータリーの最優先事項になっていて、全ロータリアンが全力で取り組んでいますので、近い将来、必ずや、ポリオ撲滅が達成できると信じています。

2つの資金

- DDF (地区財団活動資金)

- 地区が活用方法を決定
- 地区内のロータリアンが使用
- 財団の補助金やプログラムに活用

- WF (国際財団活動資金)

- 管理委員会が活用方法を決定
- 全世界のロータリアンが使用
- 財団の補助金やプログラムに活用